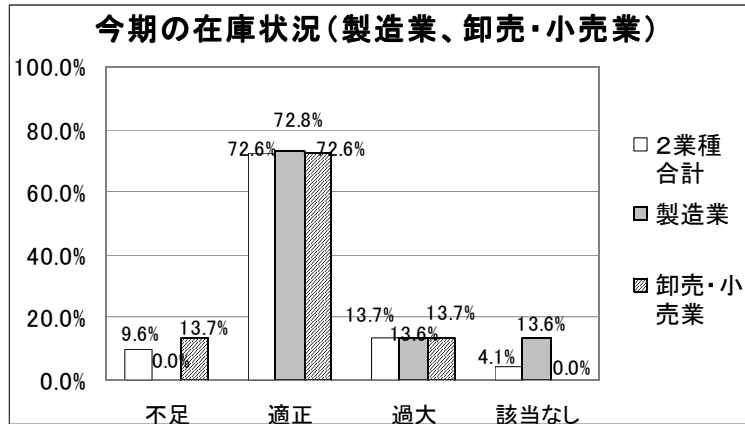
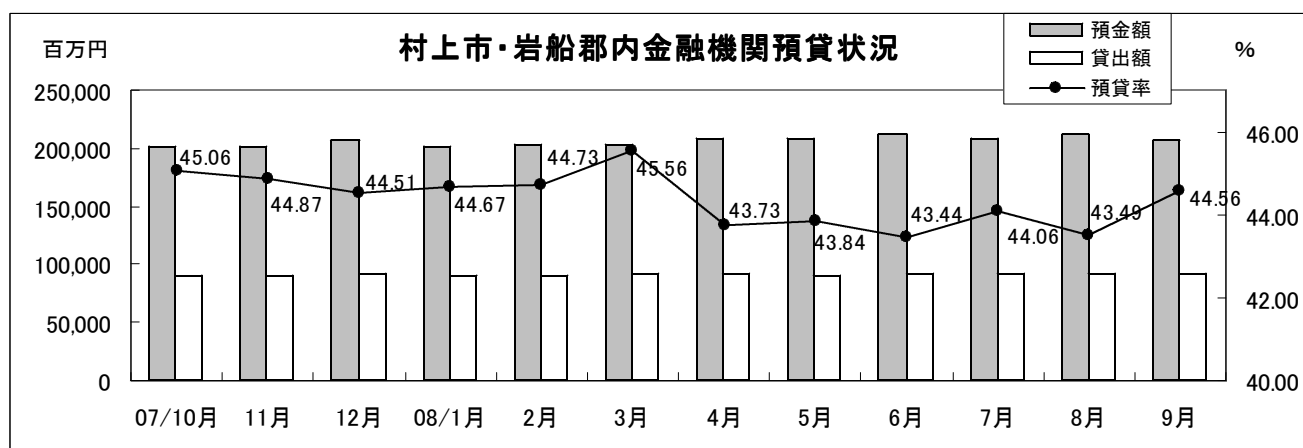
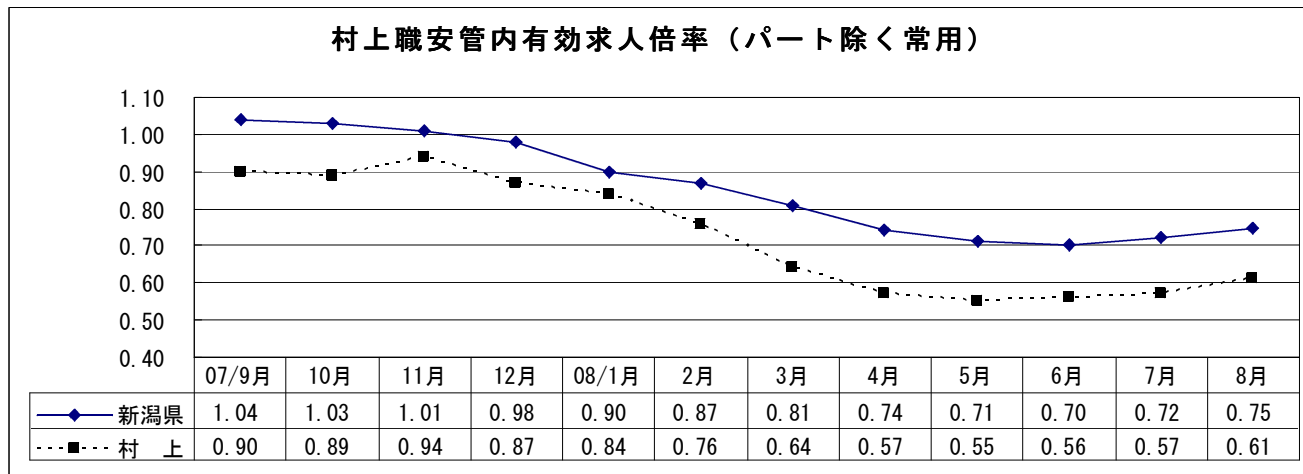
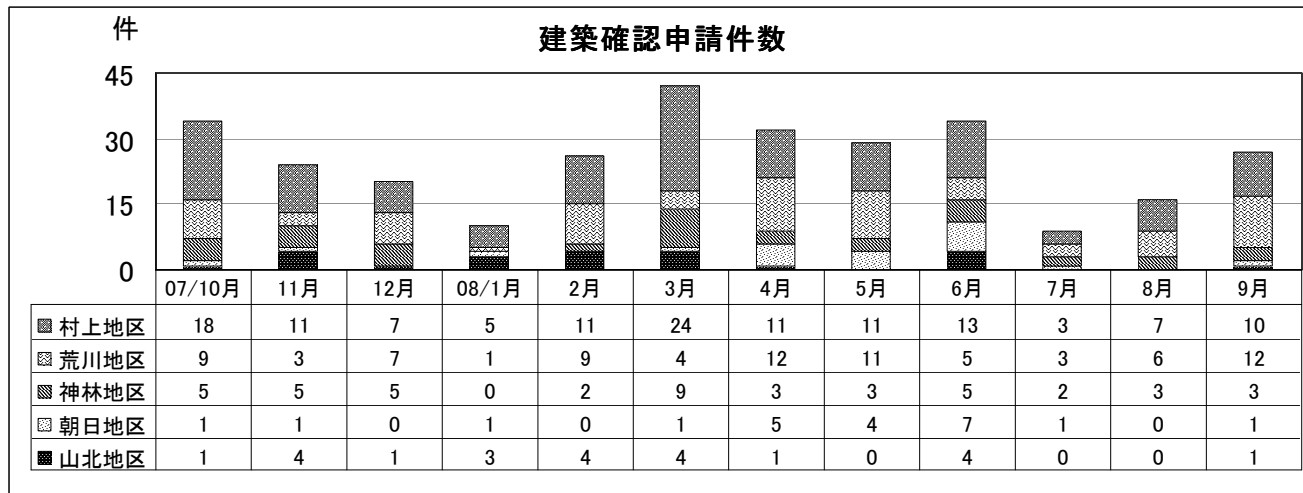


# 村上市景況調査報告

平成20年7～9月期の実績と10～12月期の見通し



製造業及び卸売・小売業において、在庫を「適正」とする企業は72.6%、「過大」とする企業は13.7%、「不足」とする企業は9.6%であった。業種別では製造業において「不足」とする企業がなかったこと以外は、差異は殆どみられない。



調査時期：2008年9月中旬～下旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 173社 (回収率86.5%)

[業種別内訳] 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社  
[地区別内訳] 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市産業観光部商工観光課  
村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

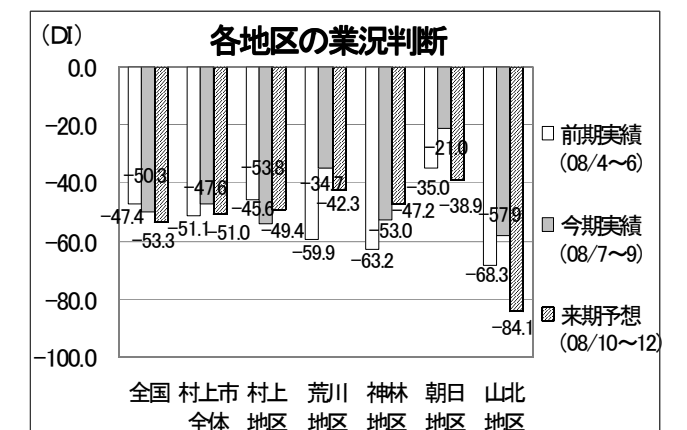
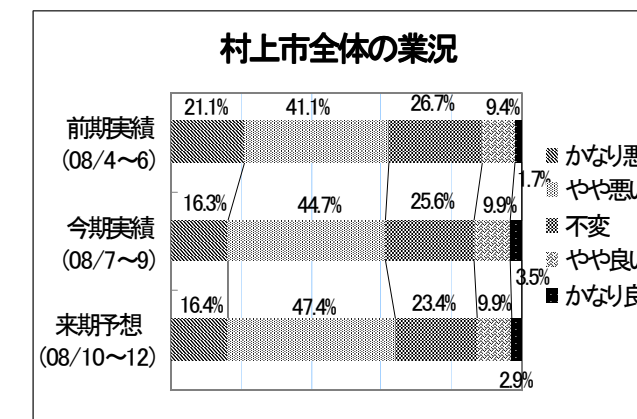
分析機関：村上商工会議所

全国状況：日本政策金融公庫調査 全国小企業動向調査結果 (2008.7～9実績、10～12見通し)

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合 (売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。)

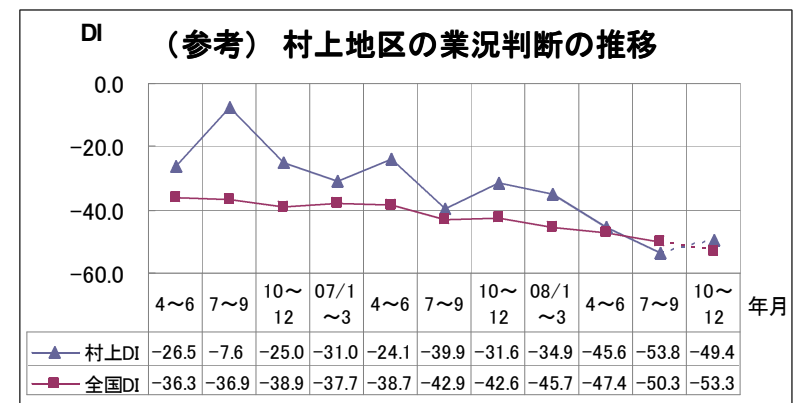
## 『原材料高騰、消費低迷等で景況は悪化傾向』

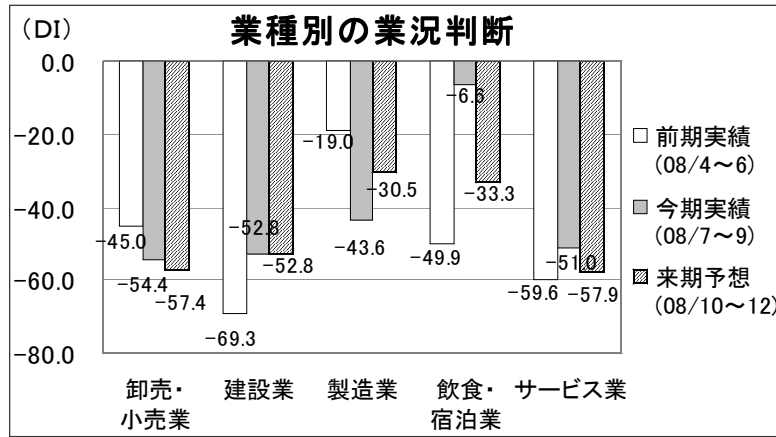
### ■村上市の業況



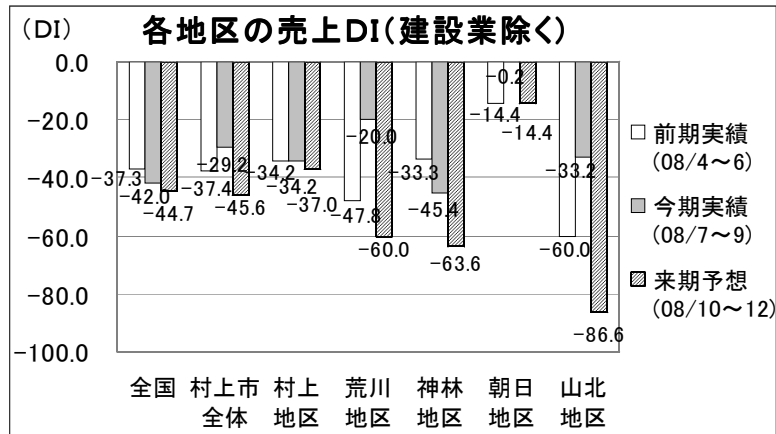
今期(7～9月期)の業況判断DIは、前期より3.5ポイント上昇し、▲47.6となった。これは前回調査における7～9月期の見通しを6.8ポイント下回る結果である。なお全国DIは前期比2.9ポイントの低下の▲50.3となっている。

来期(10～12月期)については、3.4ポイント低下する見込みで、原因としては売上不振、原材料の高騰や社会不安による消費減退、汚染食品の風評問題等が挙げられる。全国の見通しも3.0ポイント低下する見込み。



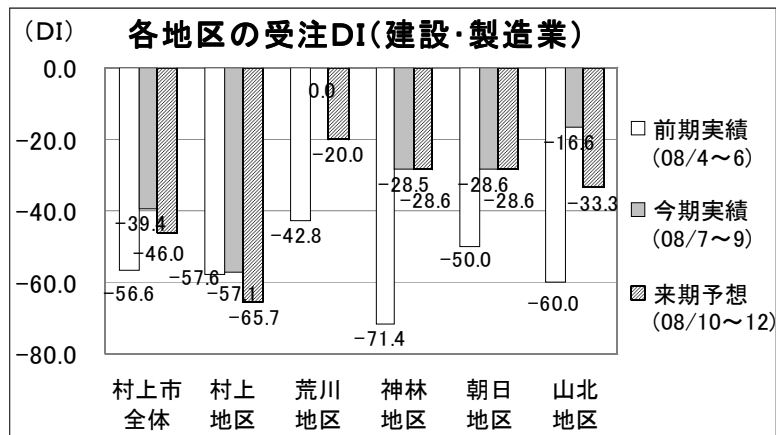


今期の業種別業況判断D Iは、飲食・宿泊業が前期比43.3ポイントと大きく上昇し、中越沖地震の影響等で落ち込んだ前年から持ち直した感がみられる。また、建設業で同16.5ポイント、サービス業で同8.6ポイント上昇した。製造業においては、原材料や資材、燃料の値上げ等の影響を受け、同24.6ポイント低下した。来期については、製造業は13.1ポイント上昇、建設業は同水準、卸売・小売業は3.0ポイント低下、サービス業は6.9ポイント低下、飲食・宿泊業は26.7ポイント低下する見通しとなっている。



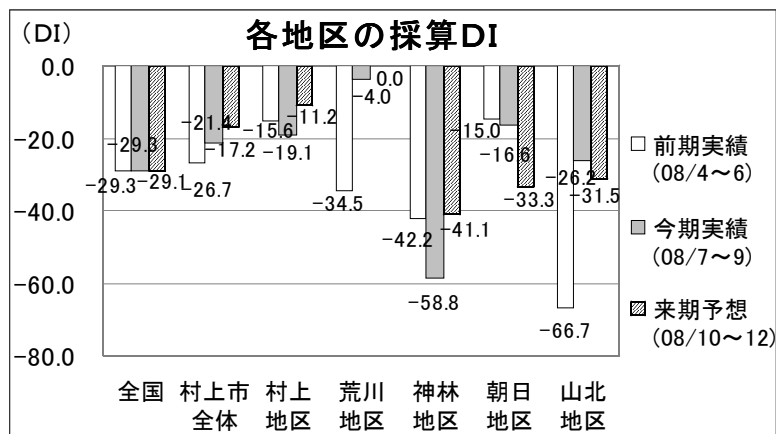
今期の売上D Iは、▲29.2で前期に比べ、8.2ポイント上昇した。なお全国D Iは4.7ポイント低下している。来期の見通しについては、16.4ポイント低下の▲45.6で、全国D I▲44.7を下回る見込みである。

来期について地区別に見てみると、全地区においてD Iが低下する見込みで、特に山北地区(53.4ポイント低下)、荒川地区(40.0ポイント低下)が際立っている。



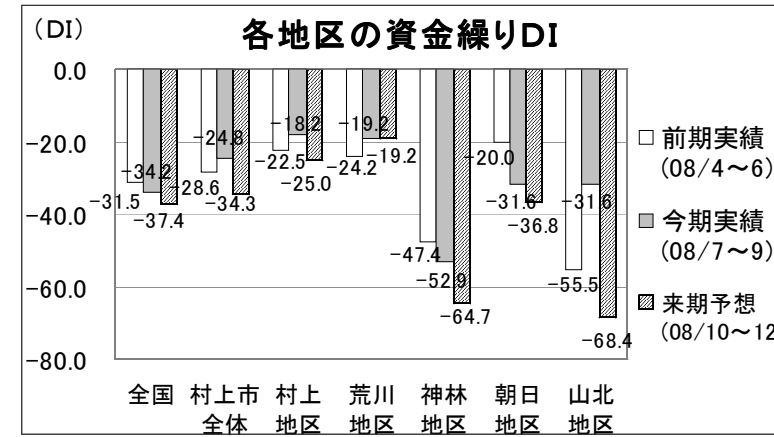
今期の受注D Iは▲39.4で前期に比べ17.2ポイント上昇した。来期は6.6ポイント低下する見込みである。

来期について地区別に見てみると、朝日地区と神林地区が同水準の見込みで、村上地区が8.6ポイント低下、山北地区が16.7ポイント低下、荒川地区が20.0ポイント低下する見込みである。



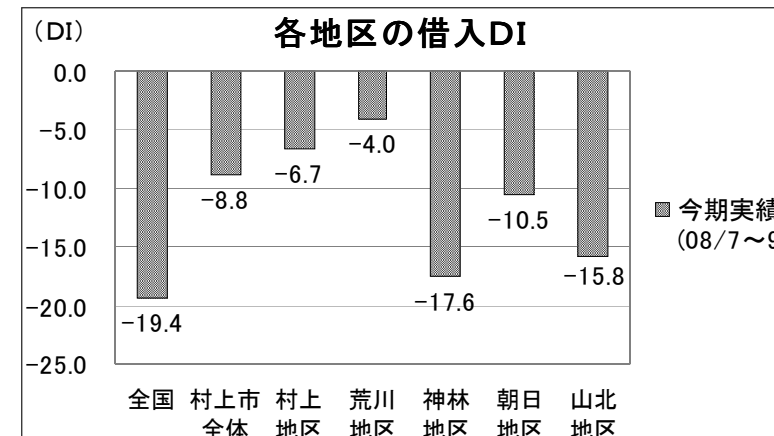
今期の採算D Iは▲21.4で前期に比べ5.3ポイント上昇し、全国のD Iよりも7.9ポイントを上回った。なお、来期については、全国は今期とほぼ同水準の見込みだが、村上市においては4.2ポイント上昇する見込みである。

来期について地区別に見てみると、神林地区で17.7ポイント上昇、村上地区で7.9ポイント上昇、荒川地区4.0ポイント上昇、山北地区5.3ポイント低下、朝日地区16.7ポイント低下する見通しとなっている。



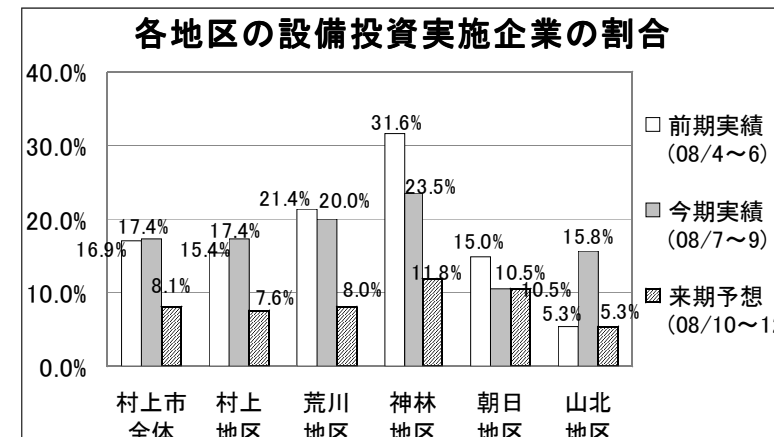
今期の資金繰りD Iは▲24.8で前期に比べ3.8ポイント上昇し、全国のD Iより9.4ポイント上回った。来期については、9.5ポイントと大きく低下し▲34.3になる見込みで、全国の見通し▲37.4に近い水準となる見込みである。

来期について地区別に見てみると、荒川地区(同水準)を除く全地区で低下する見込みで、特に山北地区の低下幅が(36.8ポイント)大きい。



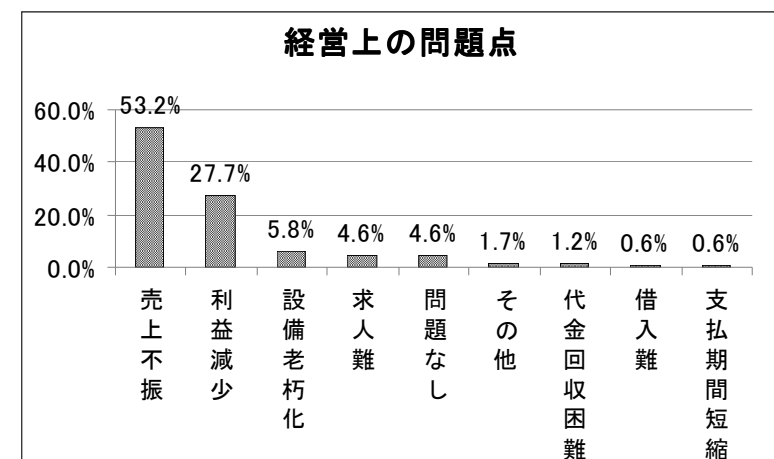
今期の借入状況は、「容易になった」が2.4%、「難しくなった」が11.2%で、D Iは▲8.8となり、全国のD Iより、10.6ポイント上回った。

地区別では、高い順に荒川地区、村上地区、朝日地区、山北地区、神林地区となっている。



今期、設備投資した企業の割合は、17.4%で、前期より0.5ポイント上昇した。来期に設備投資を予定している企業の割合は8.1%で、今期に比べ9.3ポイントと大きく低下する見通しである。

来期について地区別に見てみると、朝日地区(同水準)を除く全地区で約10ポイント前後低下する見込みとなっている。



経営上の問題点をみると、第1位が売上不振(53.2%)、第2位が利益減少(27.7%)、第3位が設備老朽化(5.8%)、第4位が求人難(4.6%)となっている。

全国では、第1位が売上減少(53.6%)、第2位が利益減少(27.6%)、第3位が求人難(4.4%)、第4位が設備老朽化(4.1%)となっている。